

住みよい街への提案

今私が住んでいる街は、昭和 40 年代に大きく台地を削り、谷を埋めてるよ
うに工事して大規模造成された団地である。道路はアスファルトやコンクリ
ートで覆われ、家々も密集し緑が少ない環境である。このような環境では、コン
クリートなどによる蓄熱などによるヒートアイランド現象で、夏場の暑さは郊
外区域に比べ非常に厳しい。さらに、人のいるところでの、涼しい環境ですご
したいために、エアコンにより冷房を行う環境が助長され、そのエアコンの排
熱により、外気温はさらに高くなる。

近年の社会においては、環境負荷低減や、CO₂削減が呼びかけられている中
で、このエアコンによる消費電力は非常に大きいと思われる。地球にやさしい
環境作りは、全人類の大きな目標となるべきであり、これを効果的に行なうこ
とで、将来へつながる。

街づくりとして、このような省エネルギー社会に対して現在取り組みされて
いることは、ビル等の屋上緑化があるが、その他できそうなものを下記に挙げ
る

道路に高木などの植樹を増やし、樹木に光を当て、その熱は風により逃
がすようにし、地面への蓄熱を少なくする。

道路などの法面にも植樹を増やす。植樹により、草刈などの維持管理も
少なくなる。

市街化区域の中に、照葉樹林などの緑化面積を規定し、緑を増やす。

過疎化しているところにも、平均して人が住めるような環境づくり。

高度な情報化により、在宅勤務を早期に実現させ、住みよい環境での仕
事ができる社会

暑い夏場でも、照葉樹林の中は涼しいものである。これは、緑による涼しさ
だけでなく、いかに熱を空気にうまく逃がしていくものだと思う。このように、
することで、住みよい町にしていければもっとゆとりのある、生活ができると思
う。